

## 平成21年度第2回協働推進会議要旨

- 1 日 時 平成22年3月11日(木) 15:30~17:00
- 2 場 所 大分県庁舎本館2階22会議室
- 3 出席者 (委員) 奥田憲昭委員、松尾和行委員、吉田彰一委員、野下直樹委員、  
小野町子委員、稲生 亨委員、勝尾逸子委員、渡邊由美子委員、  
高橋賢一委員、坂本幸枝委員 計10名  
(事務局(県)) 足達賢二県民生活・男女共同参画課長、  
同課県民活動支援班 藤原淳司、塚本由美、飯田 亮  
計4名

### 4 議 事

- (1) 県民活動に対する本年度の支援状況について  
(2) 今後の支援方策について  
(3) NPO法人による法令等違反への対応について

### 5 議事内容

- (1) 県民活動に対する本年度の支援状況について  
(2) 今後の支援方策について

〔委員〕研修では、参加者がどうしても受け身になる。NPO 同士の交流への手立てがあるといい。NPO にとっていちばんの刺激は、他のNPO の活動情報だ。

環境 NPO の九州大会が鹿児島であり、参加してきたが、立派な施設があり、交流ができた。今のアイネスでは狭く、交流ができていない。

〔事務局〕以前、「協働まちづくりセミナー」を年4回行い、交流会を行っていた。その結果、宇佐市では「宇佐市NPO連絡協議会」として独自に継続している。

今後、企業、NPO 等の異業種交流等をおおいた NPO・ボランティアセンターで行っていききたい。

NPO の交流には県の各振興局にある「担い手プラザ」を利用できるが、地域で交流会をコーディネートする人が必要。地域での協議の場づくりを進めていく。

アイネス1階は自由に使えるスペースなので、交流会を行いたいし、中間支援組織を育成していききたい。

〔委員〕佐伯県南ネットは3ヶ月に1回続けているが、参加を呼びかけてもNPO の側の意識が高くなく、集まり、交流することの意義を感じていない。

新たな動きとして、佐伯市ロータリークラブ等がNPO に興味を持っている。

〔委員〕日出町にはまちづくり委員会があるが、NPO、企業、行政がコラボしている。行政がしっかりバックアップしてくれており、うまくいっている。

- 〔委員〕新規事業「地域ネットワーク版協働型委託事業」の流れを再度説明してほしい。
- 〔事務局〕他で解決できなければ、最終的に委託契約を結ぶことになるが、地域における協議の場づくりと課題解決に向けたネットワークの形成がこの事業の真のねらいである。
- 〔委員〕市町村がネットワークに入ることが重要である。
- 〔事務局〕市町村や社協、商工団体等にも入ってもらう予定。  
資料の事例は、イメージを持ってもらうために事前の照会もせず揚げており、地域での課題は様々だと思う。
- 〔委員〕NPOにとって地域に立脚することは正しい方向だと思う。あとは誰もが参加しやすい事業の形にしてほしい。
- 〔事務局〕地域での議論が本意、その環境づくりが主目的である。
- 〔委員〕余裕がなく、自分たちのことだけで精一杯の状況であるが、地域毎に取り組んだ方が住民目線の課題設定となり、大いに賛成である。
- 〔委員〕地域でのネットワークづくりがいちばん難しい。その段階への支援があってもいいのではないかな？
- 〔事務局〕委託事業は地域からの提案となるが、ネットワークづくりの際の勉強会開催等への応援は可能である。関係団体とのつなぎ等についても、声かけ等はもちろんこちらからも行っていく。
- 〔委員〕日々の課題で忙しいNPOが動き出そうとしたときに市町村や社協がサポートすることが大切で、その部分で県からしっかり働きかけ、後押ししてほしい。

### (3) NPO法人による法令等違反への対応について

- 〔委員〕このような事例が起きないための予防措置は？
- 〔事務局〕毎年の事業報告書の提出をしっかりと促していき、活動内容の把握に努めたい。

### 議論のまとめ

- 〔議長〕NPOの交流の場が議論となったが、大分市が計画している大分駅南での施設整備を機に、大分市民以外でも交流の場として使えるよう働きかけてはどうか。  
また、地域でのネットワークづくりには、市町村が参加することが重要であり、県にも取組をお願いしたい。